

# I 平成23年度事業報告書

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

当財団は、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の指定管理者として、平成21年度から3年間の指定を受け、埼玉から全国に向けて質の高い芸術文化作品を数多く創造、発信するとともに、地域の特性に合ったプログラムや地域と連携した取組を通して、地域の賑わいの核としての役割を果たすことに努めた。

また、平成23年4月1日付けで公益財団法人へ移行を果たし、従来以上に公共劇場の使命及び役割を果たすための組織体制を整備した。

平成23年度は、東日本大震災の影響により、埼玉県が平成23年2月から同年6月末までの予定で実施していた彩の国さいたま芸術劇場の改修工事が8月末まで工期延長となり、劇場施設の利用再開に遅れが生じたほか、一部の財団主催事業を中止するなどの事態が生じたが、下半期を中心に数多くの優れた芸術文化作品を県民に提供することができた。

演劇部門においては、「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の第24弾として「アントニーとクレオパトラ」を上演するなど、当財団独自の事業を展開した。

舞踊部門においては、世界的に活躍するダンサー・振付家であるジェローム・ベルの代表作「ザ・ショー・マスト・ゴー・オン」の日本人キャストによるオリジナル版を制作、上演するなど、良質な舞台芸術作品に触れられる機会を提供した。

音楽部門においては、交響楽団によるオーケストラ公演から、ポジティブ・オルガンを活用した無料コンサートなどの親しみやすい公演まで、多彩なラインナップを提供し、多種多様な音楽ニーズに応えた。

また、施設利用においては、利用者アンケートを引き続き実施し、利用者ニーズの細かな把握に取り組んだ。アンケートに寄せられた要望を検討して施設の備品を充実させるなど、一層の利用者サービスの向上に努めた。

## 1 事業の概要

### (1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

#### ア 自主企画公演等及び国内外との交流（48事業）

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、世界レベルの芸術作品を創造、発信、提供した。

また、埼玉会館、熊谷会館では、それぞれの施設の特性を活かし、地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施した。

#### (ア) 彩の国さいたま芸術劇場（38事業）

##### a 演劇部門

蜷川幸雄芸術監督の演出による多彩なラインナップを展開した。

新たなキャストを迎えて3年ぶりの上演となった「身毒丸」をホリプロとの共催により上演した。この公演は当劇場の改修工事期間が延長となったことにより、場所を天王洲 銀河劇場に移して上演した。

また、同じく蜷川幸雄が芸術監督を務める Bunkamura との共同制作による「あゝ、荒野」を上演。従来の当劇場の作品とは趣の異なる作品を提供することで、より幅広い観客層の開拓を図ることができた。

当劇場の看板である「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では、第24弾として悲劇「アントニーとクレオパトラ」を上演した。なお、本公演は蜷川幸雄作品で初めてとなる韓国での公演も実施した。

さらに、当劇場を拠点として活動する二つの演劇集団のうち、55歳以上のメンバーによる「さいたまゴールド・シアター」は、第5回公演として、岩松了書き下ろしの新作「ルート99」を上演した。また、若手俳優による「さいたまネクスト・シアター」は、新たなメンバーを加え、第3回公演「2012年・蒼白の少年少女たちによる『ハムレット』」を上演した。

事業名	実施時期	会場
「身毒丸」	8月～9月	天王洲 銀河劇場
彩の国シェイクスピア・シリーズ第24弾「アントニーとクレオパトラ」	10月	大ホール
Bunkamura 共同制作作品「あゝ、荒野」	10月～11月	大ホール
さいたまゴールド・シアター第5回公演「ルート99」	12月	小ホール
さいたまネクスト・シアター第3回公演 「2012年・蒼白の少年少女たちによる『ハムレット』」	2月～3月	大ホール

## b 舞踊部門

世界的振付・演出家や国内外で活躍するアーティストによる、多彩な表現の可能性を示す作品を提供した。

世界的に活躍するダンサー、振付家で、22年度事業「3Abschied ドライアップシート」公演で来日したジェローム・ベルの代表作「ザ・ショー・マスト・ゴー・オン」を日本版キャストを公募して制作、上演した。

また、大人と子どもと一緒に豊かなダンス表現に触れられる「日本昔ばなしのダンス」を県立近代美術館で上演した。この公演は、東日本大震災の被災者の避難所となっていた三郷市立瑞沼市民センターにおいても、被災者支援として上演した。

さらに、継続的な取り組みとして、独自の作風でダンスの裾野を広げるコンドルズの「埼玉公演 2012 新作『十二年の怒れる男』」を上演した。

事業名	実施時期	会場
日本昔ばなしのダンス	7月	県立近代美術館
ジェローム・ベル「ザ・ショー・マスト・ゴー・オン」	11月	大ホール
コンドルズ埼玉公演2012新作「十二年の怒れる男」	1月	大ホール
ダンス・ワークショップ（「日本昔ばなしのダンス」三郷公演）	7月	三郷市立瑞沼市民センター

## c 音楽部門

世界屈指のアーティストや日本を代表するソリストによるリサイタル、古楽アンサンブルなど多彩なジャンルの公演を提供した。

注目のアーティストをクローズアップして3年にわたって劇場オリジナル企画を展開するシリーズ「小菅 優の現在（いま）」は第3回目公演を、「小曾根 真の現在（いま）」は第2回目公演を開催した。また、若手の期待の星たちによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」は、フランスのダヴィッド・フレイと日本の金子三勇士のリサイタルを実施した。

恒例のバッハ・コレギウム・ジャパンによる演奏会は、クリスマスシーズンに合わせて、ヘンデルの大作「メサイア」を上演した。

また、改修工事に伴う公演休止期間が明けてのシーズンということを受けて、日本を代表する演奏家であり、当劇場にもゆかりのある堤

剛（チェロ）、寺神戸亮（バロック・ヴァイオリン）、小山実稚恵（ピアノ）を迎えた特別企画「バッハとの対話」を開催した。

一方、どなたでも気軽に音楽に触れられる機会を広く提供するため、ポジティブ・オルガンを活用した無料の「光の庭プロムナード・コンサート」や、オルガンを通じた音楽の普及啓発を目的とした「みんなのオルガン講座」も継続して実施した。

若い世代に芸術体験の機会を提供する小・中学校への出張コンサート「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」は、県内公立文化施設との共催も含め、8つの小中学校で実施した。また、「カレファックス・リード・クインテット」公演と併せて、県内高校生を対象としたクリニックを開催した。

事業名	実施時期	会場
小曾根 真の現在 Vol.2 ソロ	10月	音楽ホール
小菅 優の現在 Vol.3 ピアノ・リサイタル	10月	音楽ホール
カレファックス・リード・クインテット／クリニック	11月	音楽ホール
ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol.16～Vol.17)	11月・3月	音楽ホール
バッハとの対話 Vol.1・Vol.2 堤 剛	12月	音楽ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル《メサイア》	12月	音楽ホール
バッハとの対話 Vol.3・Vol.4 寺神戸亮	1月	音楽ホール
バッハとの対話 Vol.5 小山実稚恵	2月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート	9月～3月	情報プラザ
みんなのオルガン講座	11月	大練習室
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！	6月～11月	県内小・中学校
MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！（共催）	12月～1月	川越市

#### d その他

世界演劇の巨匠ピーター・ブルックの演出によるオペラ「ピーター・ブルックの魔笛」をびわ湖ホール及び北九州芸術劇場と共同で日本に初招聘した。好評により、予定していた4公演のほか、追加で1公演を行った。

また、「彩の国さいたま寄席」を引き続き実施するとともに、蜷川幸雄芸術監督と各界のアーティストとの公開トークセッション「NINAGAWA 千の目」を野田秀樹氏とこまどり姉妹をゲストに2回実

施するなど、幅広い世代、層の方々に親しみやすい事業も引き続き積極的に行った。

このほか、県内高等学校の生徒や顧問及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の大学講座への協力、大学のインターンシップを積極的に受け入れるなどして、地域との連携を深めた。

事業名	実施時期	会場
彩の国さいたま寄席	11月・1月	小ホール
「ピーター・ブルックの魔笛」	3月	大ホール
埼玉大学アートマネジメント講座	4月～7月	埼玉大学他
蜷川幸雄公開対談シリーズ「NINAGAWA 千の目」	9月・1月	小ホール
県内高校生対象舞台技術講座	2月	小ホール
県内公立文化施設職員舞台技術講習会	10月	小ホール
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場

(イ) 埼玉会館（8事業）

埼玉会館では、大ホールの特性を活かしたフルオーケストラ公演として毎年好評を博しているNHK交響楽団及び新日本フィルハーモニー交響楽団の公演を引き続き実施した。新日本フィルハーモニー交響楽団公演は、新春恒例のイベントとして定着しているニューイヤー・コンサートとして実施した。

加えて新年には、6年ぶりに野村万作・萬斎による狂言公演を実施し、併せて初心者向けの狂言講座を開催した。

また、大人から子どもまで幅広い年齢層を対象にしたファミリー・コンサート、平日昼間のランチタイム・コンサートも引き続き開催し、親しみやすい音楽の鑑賞機会を広く提供するとともに、新たな鑑賞者層の開拓を図った。これらの公演では、地元飲食店とのタイアップなど、地域との連携を図りながら事業を展開した。

事業名	実施時期	会場
ヘラス=カサド(指揮)神尾真由子(ヴァイオリン)NHK交響楽団	7月	大ホール
埼玉会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストランド!	7月	大ホール
埼玉会館ニューイヤー・コンサート 新日本フィルハーモニー交響楽団	1月	大ホール

狂言 野村万作・野村萬斎	1月	大ホール
埼玉会館ランチタイム・コンサート	5月～3月	大ホール

(ウ) 熊谷会館（2事業）

「熊谷会館ファミリー・コンサート 音楽の絵本」を実施し、家族揃って音楽の魅力を感じていただける機会を提供した。

さらに、好評の「熊谷会館バレエ・セミナー」を引き続き行うなど、県北地域の子どもたちが本物の芸術に触れることのできる機会を提供した。

なお、「熊谷会館ファミリー・コンサート 音楽の絵本」には、東日本大震災の影響により県内に避難している家族を招待した。

事業名	実施時期	会場
熊谷会館ファミリー・コンサート「音楽の絵本」	5月	ホール
熊谷会館バレエ・セミナー	8月	ホール

イ 広報に関する事業

(ア) 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催した。

a 「〈世界の NINAGAWA〉、海外への挑戦」

蜷川幸雄作品で初の韓国公演が決まった『アントニーとクレオパトラ』の上演にあわせ、『身毒丸』『マクベス』など、彩の国さいたま芸術劇場で誕生し海外へと渡ったこれまでの作品の写真、海外公演のポスターやパンフレットなどを展示した。

b 「さいたまゴールド・シアターの軌跡」

さいたまゴールド・シアター第5回目の公演となる『ルート99』の上演にあわせ、これまでのさいたまゴールド・シアターの舞台写真や、写真家荒木経惟が撮影した稽古写真などを展示した。

- c 「演劇の神様と呼ばれた演出家 ピーター・ブルック回顧展」  
『ピーター・ブルックの魔笛』の日本公演を記念し、世界的な演出家であるピーター・ブルックのこれまでの来日公演の上演写真、パンフレットやポスターなどの展示を行った。

(イ) 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団主催事業などを紹介した情報誌「埼玉アーツシアター通信」を発行した。

公演の見どころや蜷川芸術監督の公開トーク・セッション(NINAGAWA 千の目)の内容を掲載するなど、読みやすく、かつ充実した内容の情報誌を目指し、編集を行った。

- a 発行回数、部数 6回 各 13,000 部発行  
b 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

(ウ) メンバーズ事業

財団の活動を支援する個人の会員組織「メンバーズ」への加入促進に努めた。「メンバーズ」の会員には、財団情報誌を送付するとともに、財団主催事業のチケットについて優先販売と割引サービスを行うことにより、チケットの販売促進を図った。

会員数 5,430 人 (平成 24 年 3 月末現在)

(エ) サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し財政面で支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」への加入促進に努めた。『アントニーとクレオパトラ』上演時にはサポーター鑑賞会及び懇親会を実施した。

サポーター会員数 80 社 (平成 24 年 3 月末現在)

ウ 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、LD、ビデオ等を収集し、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開した。

## (2) 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

利用者が自ら行う芸術文化活動の拠点施設として、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の3館について、多様なニーズに対応するとともに、各施設の持つ機能を効果的に活用しながら施設貸与を行った。

### ア 彩の国さいたま芸術劇場

彩の国さいたま芸術劇場の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、けいこ場、練習室等が十分に活用されるよう利用者アンケートの意見を踏まえ、利用者サービスの充実に努めた。

施設利用の促進を図るため、抽選で希望日から外れた利用希望者に対する代替日の斡旋や、施設の利用歴がある団体等へキャンセル情報の提供などに努めたほか、近隣小学校等の施設見学を積極的に受け入れた。

また、夏期の電力使用制限に対応するため、埼玉会館との共同利用制限スキームの活用、省エネタイプの照明器具の導入、照明の間引き、空調の温度設定や運転時間を調整するなどして節電に努めた。

総来場者数 161,592人

### 施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	507	424	83.6
けいこ場・練習室	2,213	2,142	96.8
計	2,720	2,566	94.3

### イ 埼玉会館

埼玉会館の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

平成23年度は、老朽化した大ホールの映写機に代わり、大型プロジェクターとブルーレイディスク等を再生できるプレイヤーの貸し出しを開始し、利用者のニーズに応えた。

また、夏期の電力使用制限に対応するため、催し物において使用する舞台照明の削減協力を利用者に依頼した。さらに、節電と照明機器の性能向上の観点から舞台照明プランを全面的に見直し、使用電力の削減及び附属設備利用料金における利用者の負担軽減に寄与した。



総来場者数 671,217人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	640	551	86.1
会議室	5,706	4,351	76.3
展示室	1,008	702	69.6
計	7,354	5,604	76.2

※「総来場者数」及び「施設の利用状況」の数値は、後述(3)アの「各種の活動及び発表の場の提供」による実績を含む。

ウ 熊谷会館

熊谷会館の施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室が十分に活用されるよう利用者サービスの充実に努めた。

平成23年度は、会館ホームページを大幅にリニューアルし、施設の予約申込手続きをしやすくして、利用者サービスの向上に努めた。

また、ホール用と展示室・会議室・リハーサル室用の「利用の手引き」を大幅に改訂し、施設の利用歴がある団体にダイレクトメールを送付したほか、公演や施設点検の予定表を近隣に配布し、地域密着型会館として情報提供活動を行った。会議室や給湯室等の備品についても定期的に点検を行い、快適にご利用いただけるよう努めるとともに、利用者アンケートを随時実施し、利用者の要望に対応した。

このほか、夏期の電力使用制限に対応するため、照明器具の間引き点灯や省エネタイプへの改修、空調の間引き運転などを行い節電に努めた。

総来場者数 122,605人

施設の利用状況

施設等の名称	利用可能日数 (日)	利用日数 (日)	利用率 (%)
ホール	281	162	57.7
会議室	920	732	79.6
展示室	307	239	77.9
計	1,508	1,133	75.1

※「総来場者数」及び「施設の利用状況」の数値は、後述(3)アの「各種の活動及び発表の場の提供」による実績を含む。

### (3) 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

#### ア 各種の活動及び発表の場の提供

多目的ホールである埼玉会館及び熊谷会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行った。

#### イ 駐車場の管理運営

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において有料駐車場を管理運営した。

#### ウ その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場、埼玉会館及び熊谷会館の施設内において、県の行政財産使用許可を得た上で、飲料販売業者と契約し、自動販売機を設置した。

## 2 東日本大震災による業務への影響

### (1) 舞台芸術作品の提供等に関する事業

東日本大震災の影響により、彩の国さいたま芸術劇場改修工事の工事期間が延長となったこと等を受けて、一部の財団主催事業について中止又は開催を延期等した。

事業名	当初計画	変更後
松竹大歌舞伎	7月（熊谷会館）	中止
みんなのオルガン講座 （基本コース【ソロ/アンサンブル】）	7月～11月 （芸術劇場）	中止
宮川彬良&アンサンブル・ベガ	8月（芸術劇場）	中止
光の庭 <sup>♪</sup> ロマナト <sup>♪</sup> ・コンサート	8月（芸術劇場）	1公演中止
彩の国さいたま寄席 四季彩亭	8月（芸術劇場）	1公演中止
劇場体験ツアー	8月（芸術劇場）	中止

ヤン・ファール 「プロメテウスの風景Ⅱ」	12月（芸術劇場）	中止
みんなのオルガン講座（レクチャー）	7月（芸術劇場）	開催延期（11月）
身毒丸	8月（芸術劇場）	会場変更 （天王洲 銀河劇場）
日本昔ばなしのダンス	7月30日～31日 （芸術劇場）	開催日・会場変更 （7月23日・近代美術館）

（2）芸術文化活動の場の提供等に関する事業

東京電力による計画停電及び彩の国さいたま芸術劇場における改修工事の工期延長により、一部の利用予定者が施設を利用できなくなったため、利用日の変更、利用料金の返還及び他の貸館施設の紹介により対応した。

3 理事会・評議員会の開催

当財団の事業計画、予算、決算の承認、事業の状況報告等を行うため、理事会を3回（5月、10月、3月）、評議員会を3回（6月、11月、3月）開催した。

#### 4 役職員に関する事項

##### (1) 役員数 (平成24年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
理 事 長	—	1	1	
専務理事	1	—	1	県派遣 1
理 事	2	4	6	県派遣 1
監 事	—	2	2	
計	3	7	10	県派遣 2

##### (2) 職員数 (平成24年3月31日現在)

(単位：人)

	常 勤	非常勤	計	備 考
館 長	2	—	2	県派遣 2
グループリーダー・課長	4	—	4	県派遣 3
主 査	16	—	16	県派遣 4
主 任	15	—	15	
主 事	11	—	11	
技 師	1	—	1	
専 門 員	1	1	2	
芸術監督	—	1	1	
プロデューサー	—	1	1	
参 与	—	1	1	
その他非常勤職員	—	6	6	
計	50	10	60	県派遣 9